

A-4

「こんな紳士をつかまえて何をいうか！」

—動詞「つかまえる」の文法化の観察—

氏家啓吾（東京大学大学院）

keigo5525@gmail.com

1. はじめに

日本語の動詞「つかまえる」には (1) の例に見られるような特異な用法がある。(1) は Twitter からの実例で、「キモい」と言われたことに対する返信（リプライ）である。ここでの動詞「つかまえる」の使い方は、物理的につかまえるという事象が起こってなくてもよいという点で (2) のような典型的な使い方とは異なる。

(1) なんだと！こんな紳士をつかまえて何をいうか！

(Twitter 2018/03/13)

(2) カエルをつかまえて家まで持って帰った。

本発表では (1) のような表現を「つかまえて」構文と呼ぶことにし、この構文の特徴と動機付けを明らかにすることを試みる。

構文の意味と用法についての観察として次の3点を指摘する。

- ① 意味が希薄化し文法化が起こっているということ (2 節)
- ② 不当な評価に対して不満を表明する際に使われること (3.1 節)
- ③ 目的語名詞句に（話し手が思う）正当な評価を表す表現が使われること (3.2 節)

これらの観察を前提として、構文の動機付けに関して次の3点を主張する。

- ④ 「つかまえる」のもとの意味との関わりが見て取れること (4.1 節)
- ⑤ 逆接を表す「て」の事例であること (4.2 節)
- ⑥ 日本語の情報構造に合致していること (4.3 節)

2. 意味の希薄化と形式の固定化

次の例は小説からの実例である。江戸時代の住人である松吉と現代から来た超能力少女である翠たちがお互いの目標を達成するために手を組んで、作戦会議をしている場面である。松吉が翠に「キツネ目の姉ちゃん」「キツネが化けそこなったのかと思った」と言ったのに対して、翠が次のように言い返す。

(3) (...) うちみたいな美少女をつかまえて、キツネの化けそこないっていうわけ。どこに目えつけてんねん。
(あさのあつこ『テレパシー少女蘭 時を超える SOS』)

このやりとりは長い会話の途中であり、松吉が翠を呼び止めて「キツネが化けそこなったのかと思った」と言ったわけではない。どの時点においても「松吉が翠をつかまえた」と表現されうる事態は起こっていないため、「つかまえる」は字義通りの意味で使われているとは考えられない。

さらに、「つかまえる」の目的語 NP の指示対象が話し手ではない次の例のような場合には、字義通り

の意味で使われていないことが明白にわかる。ある新聞記者がフィギュアスケートの羽生選手の態度が横柄だという主旨のツイートをしたのを踏まえて、その発言を引用したうえでのツイートである。

(4) あんなに謙虚な選手をつかまえて何言ってるの？ (Twitter 2017/04/02)

目的語 NP「あんなに謙虚な選手」の指示対象は羽生選手だが、新聞記者が直接言ったわけではなく、あくまでツイートである。羽生選手自身はその発言に気づいてさえないと思われる。したがってここでも「つかまえる」を字義的に解釈することはできない。これらの例における「つかまえる」は内容的意味が希薄で、もはや独立した事象を表してはいないと考えるのが妥当だろう。

「をつかまえて」の部分で「に」「に対して」といった文法的な要素に置き換えても文全体の意味は大きく変わらない。「NPをつかまえて」全体が、主節の表す発話行為の相手を表すという文法的意味を担っていると言える。

- (5) a. うちみたいな美少女 {に／に対して} キツネの化けそこないっていうわけ。
b. あんなに謙虚な選手 {に／に対して} 何言ってるの？

このような意味の希薄化にともなって、「NPをつかまえて」という連なりが文法的にも固定化されている。この解釈のもとでは、連用形接続は容認できない。また、「つかまえる」だけを副詞によって修飾することができない。また、「だけ」などを使って目的語 NP をとりたてることもできない。

- (6) a. カエルをつかまえ、家まで持って帰った。
b. *うちみたいな美少女をつかまえ、キツネの化けそこないっていうわけ。
(7) a. カエルをしっかりとつかまえて、家まで持って帰った。
b. *うちみたいな美少女をしっかりとつかまえて、キツネの化けそこないっていうわけ。
(8) a. カエルだけをつかまえて、家まで持って帰った。
b. *うちみたいな美少女だけをつかまえて、キツネの化けそこないっていうわけ。

3. 用法の観察

3.1 どのような時に使えるか

この用法は辞書にも記載がある。たとえば三省堂国語辞典（第七版）には、「つかまえる」の3つ目の語義として「[「人をあらわすことば+をつかまえて」の形で] ...を相手にして。...に対して」とある。しかしこの記述だけではどのような場合に「をつかまえて」が「に対して」の意味で使えるのかが明確ではない。「に対して」を使った (9a) と同じ内容を (9b) の文でも表現できるとしてしまう人がいるかもしれない。実際には、本当につかまえている場合にしか (9b) を使えない。

- (9) a. 私は先生に対して感謝の言葉を伝えた。
b. 私は先生をつかまえて感謝の言葉を伝えた。

このように、「に」「に対して」がいつでも「をつかまえて」に置き換えられるわけではない。内容的意味が希薄化しているとはいえ単なる文法的標識になっているわけではなく、非常に限定された状況でしか使えないのである。

この構文が使えるのは、不当な評価に対して不満を表明するときであるとまとめることができる。不満を表明するということを反映して、主節には「なんて～」といった修辭的な疑問表現が使われやすく、平叙文は使われにくい。ただし平叙文でも (10c) のように話し手が不満を表明する発話ならば容認される。

(10) ある人が本の中で、ノーベル賞受賞者について「大したことない」と述べているのを見て：

- a. この人、ノーベル賞受賞者をつかまえて、なんてひどいことを言うんだ。
- b. ??この人、ノーベル賞受賞者をつかまえて、「大したことない」と言っている。確かにそうだよね。
- c. この人、ノーベル賞受賞者をつかまえて、「大したことない」と言っているよ。ひどくない？

一般的に述べると、次のようになる¹。

(11) 「つかまえて」構文（「NPをつかまえて、～」）が使われる状況：

対象 X について、ある人 A がマイナス評価の発言をする。それを聞いた話し手 B は対象 X をプラス評価しているのので、A による評価を不当なものだと考え、「つかまえて」構文を使って A への不満を表明する。目的語 NP の指示対象が評価対象 X、主節の主語が A にあたる。

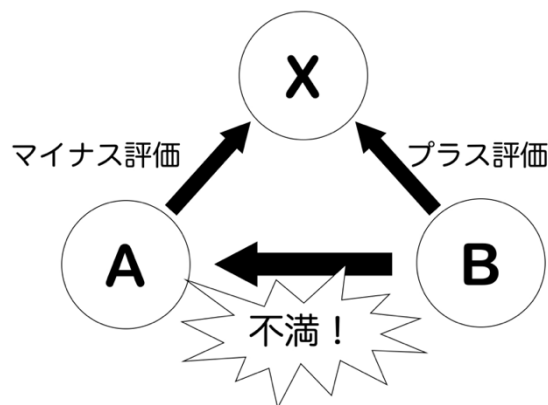


図1. 「つかまえて」構文が使われる状況における、評価対象 X・評価者 A・話し手 B の関係。

典型的な場合には、(1) や (3) の例のように話し手 B が評価対象 X でもある。実例を観察する限りではそのような例が大部分を占めるように思われる。ただし証拠はない。話し手が評価対象と一致する場合は次のように単純化できる。

¹ ただし例外として、次のような使い方がまれに見られる。この例は映画の感想である。評価者 A が話し手自身と一致している。自分の評価を不当だと述べることによって、発言を弱めていると言える。

(i) (...) ちょっとね、きれいすぎるというか、説教くさいというか、教科書的すぎるというか。本当に出来はいいんです。これほど出来がいい作品をつかまえて、そんな因縁をつけるのもひどいけど、安心して観られすぎたように思う。

(web <http://tama3gawa.blog.fc2.com/blog-entry-936> 2018/05/14 最終閲覧)

(12) 「つかまえて」構文が使われる状況の典型的な場合：

ある人Aが別の人Bに対してマイナス評価の発言をする。Bはその評価を不当なものだと考え、「つかまえて」構文を使ってAへの不満を表明する。目的語NPの指示対象が話し手B、主節の主語がAにあたる。

3.2 評価をめぐる争い

評価主体の対立という点に関連して、この構文には注目すべき特徴がある。評価対象Xを指示する目的語NPには話し手が考える正当な評価を表す(あるいは示唆する)表現が使われるという点である。(1)の「こんな紳士」、(3)の「うちみたいな美少女」、(4)「あんなに謙虚な選手」という名詞句はいずれも、話し手が考える対象Xの正当なプラスの評価を表す表現である。プラス評価を表す表現がないと不自然になる。

(13) {こんな紳士/??私/この私}をつかまえて何をいうか！

「こんな紳士」のようなプラス評価を表す表現があると良いが、「私」だけだと不自然になる²。一方、評価的な意味を含んだ「この私」だと良くなる。

この事実は、評価に対して不満を表明する際のひとつの戦略とみることができる。話し手は、正当な評価で記述することによって、いちど評価者Aによって貶められた評価対象Xを改めてカテゴリー化しなおすのである。そうすることによって「正当な評価」と「不当な評価」との対比が生じ、Aによる評価の不当さを際立たせることができる。(3)で言えば、「わたしは本当は「美少女」なのに、あなたは「キツネの化けそこない」と言った、これは不当である」ということである。このように、対象Xの評価をめぐる争いで評価者Aと話し手の間でカテゴリー化が争われるということも、この構文の意味の中に含まれている。

4. 動機付け

以下では、動機付けを論じる。つまり、日本語の他の事実とこの構文との間にどのような関係があるかということ考察する。

4.1 動詞「つかまえる」のもとの意味との関連

動詞「つかまえる」の典型的な使い方との関連を考える。森田(1989)は「AがBにつかまる」「BはAをつかまえる」の語義記述として、「AはBの力の圏内から逃れ離れたいのである。それにもかかわらずBの方が優っているため、Bに取り押さえられ、Aは自由を失う」とまとめている(森田1989: 722)。つまり、逃げようとする(かもしれない)ものに対して行為者が働きかけて逃げないようにするということが「つかまえる」の意味の要素として含まれている。次の3つの例文を考えよう。(14a)は「逃げようとするものを逃げないようにする」という意味を含んでいる。(14b)も、物理的な働きかけではないが、

² ただし、たとえば固有名詞でも、その指示対象へのプラス評価が話し手と聞き手の間で共有されているようなものなら自然な表現になる。直接的に評価を表す表現でなくても、正当な評価を示唆する名詞句ならば良いということである。

(i) チョムスキーをつかまえて、「言語学がわかってない」なんて、失礼な。

この点は共通している。このような、人を目的語に取る「つかまえる」は発話を表す表現とよく一緒に使われる。「〈つかまえる〉→〈発話〉」の流れがセットになっているのである。

- (14) a. カエルをつかまえて家まで持って帰った。
b. 太郎をつかまえて、あれこれ質問した。
c. うちみたいな美少女をつかまえて、キツネの化けそこないっていうわけ。

さて、(14c)は「つかまえて」構文の典型的な場合(評価対象が話し手と同一)の例である。このような対面の会話の例では、(14b)と同様に「〈つかまえる〉→〈発話〉」の流れとして解釈する余地がある。このように、(14b)のような「つかまえる」の用法と、典型的な「つかまえて」構文には連続性がある。

また、「逃げようとするものを逃げないようにする」という意味要素は、「不当な評価」や「不満の表明」という特徴につながっていると思われる。AとBの2人の会話を、Bが「Aさんが自分を逃げないようにしている」と捉えるということは、その会話がBさんにとって歓迎できないものであることを示唆するからである。

4.2 逆接の「て」

この構文は「て」による接続を含む。「て」には逆接を表す用法があるとされる(日本語記述文法研究会編2008)。「つかまえて」構文は逆接を表す用法の事例と考えることができる。「て」が逆接を表す場合は、従属節と主節の主語が同一であり、連用形接続では表現できないという特徴があるが、これは「つかまえて」構文にも当てはまる(2節の(6)を参照)。

江口(2016)は、逆接の「て」の中でも次のような用法を《意外性》型と呼び、「話者が主節の動作主に対して意外・不満の感情を抱いている」場合に使われると述べている。

- (15) a. ここまで面倒を見てもらって、そのような態度をとるとはいいい度胸だ
b. そんなにお酒を飲んで酔わないなんて、すごいですね

(江口2016: 73)

さらに、「《意外性》型においては「一般的に推測される状態」と「実際の状態」を比較して、予測と矛盾した帰結がなされていることが〈逆接〉の解釈を導いており、表現上は述語の指示対象となる人物へ評価を下した用法だと言える」と述べている(江口2016: 73-74)。3節で述べた「つかまえて」構文の意味はこの記述によく当てはまる。

4.3 どうして節を分けるのか? : 情報構造の観点から

どうして(16a)のように「に」などの格助詞で表現できる内容を(16b)のように2つの節に分けて表現するのだろうか。

- (16) a. うちみたいな美少女に、キツネの化けそこないっていうわけ。
b. うちみたいな美少女をつかまえて、キツネの化けそこないっていうわけ。

3.2 節で「つかまえる」構文の目的語 NP の位置には「話し手が考える正当な評価」を表す名詞句が来ると述べた。したがって目的語 NP は話し手が言いたいことのもっとも注目されやすい位置に来るのである。「うちみたいな美少女」といった、話し手がいちばん言いたいことを動詞の直前に持って来たいという談話上の欲求が、「つかまえて」構文の動機付けになっていると言える。

日本語は一般的に、動詞の直前の要素が新情報・重要な情報を表すことが多い。次の例で確認しよう。

- (17) A 次郎は花子とボストン (に) 行った？
Ba うん、ボストン (に) 行ったよ。 / Bb *うん、花子と行ったよ。 (久野 1978: 54)
- (18) a. 太郎はコーヒーを花子と飲み、次郎は夏子と飲んだ。
b. ??太郎はコーヒーを花子と飲み、次郎はココアを飲んだ。 (久野 1978: 61)

さて、上の (16a) と (16b) は、動詞とその項だけを取り出すと、以下のような構造になっている。

- (19) a: [NP] に、[内容] って V
b: [NP] を V₁ て、[内容] って V₂

(19a) では新情報である [NP] が動詞の直前に来ていない。それに対して「つかまえて」構文の (19b) では [NP] が動詞の直前に来ている。つまり、「つかまえて」構文を使うと目的語 NP が文のもっとも注目されやすい位置に来るのである。「うちみたいな美少女」といった、話し手がいちばん言いたいことを動詞の直前に持って来たいという談話上の欲求が、「つかまえて」構文の動機付けになっていると言える。

参考文献

- 江口匠 (2016) 「〈逆接〉を表す「て」をめぐって」『人文』14, 学習院大学人文科学研究所, 59-77.
久野暲 (1978) 『談話の文法』東京: 大修館書店.
森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』東京: 角川書店.
日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代日本語文法 6 第 11 部 複文』東京: くろしお出版.

³ ただし、NP の指示対象は発話に先立って共有されている。指示対象が新情報なのではなく、その指示対象が NP の記述内容を満たすことが新情報なのである。